

## 今月のテーマ 貼り薬の使い方

最近、様々な効果を持つ貼り薬が使われるようになってきています。

貼り薬は、大きく分けると、貼った部分のみに効くものと、貼った部分から吸収され全身に作用するものとに分けることができます。

今回は、一般的によく使われる、貼った部分の痛みや炎症を和らげる貼り薬について説明します。

### 痛みや炎症を和らげる貼り薬にはどんなものがあるの？

- 痛み止め配合のもの … 貼り薬に含まれている消炎鎮痛薬が皮膚から吸収されて、炎症に伴う腫れや痛みをやわらげます。
- 冷 湿 布 …………… 患部を冷やして腫れや痛みをとるハッカ油などの成分が入っています。
- 温 湿 布 …………… トウガラシエキスなどの成分が皮膚を刺激することにより、患部を温め血行を良くします。

### 温感と冷感の使い分けは？

冷湿布は熱や腫れを持った急性の痛み、温湿布は熱や腫れが引いた後の慢性の痛み、に効果的です。

どちらか迷う場合には、患部を冷やしたときと、入浴などで温めた時で、『どちらが気持ちいいか』で使い分けてください。

### パップ剤とテープ剤の違いは？

- パップ剤 → 水溶性の基材のため、水分が多く分厚い。皮膚刺激が少ない。はがしやすい。
- テープ剤 → 脂溶性の基材。薄くて粘着力が強く、はがれにくい。目立ちにくい。

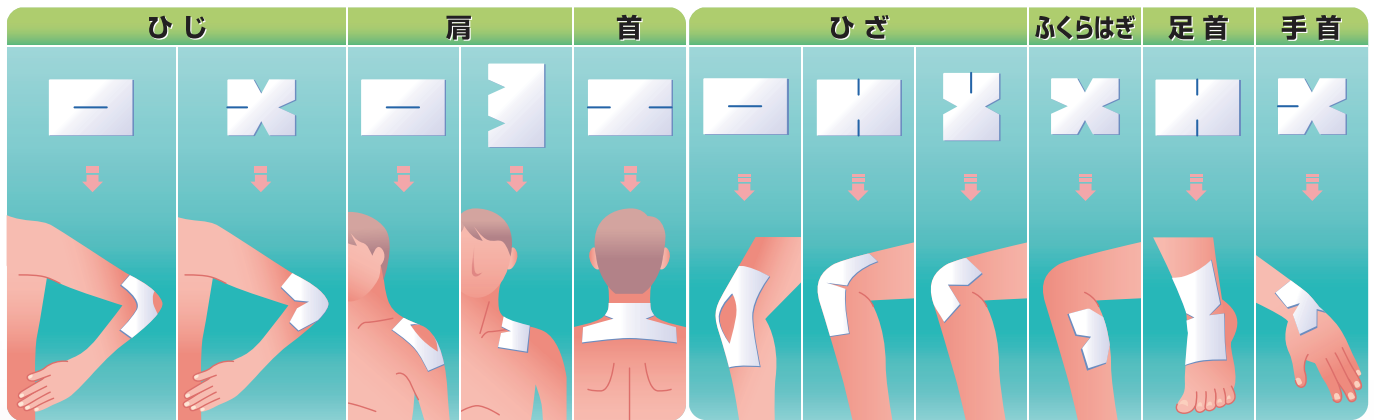
### 安全に使うためには？

- ◆ 決められた量を決められた回数で使用しましょう。
- ◆ 傷口や粘膜および湿疹・発疹があるところには使用しないでください。
- ◆ 喘息のある方、妊娠中の方は、使う前に医師・薬剤師にお知らせください。

ケトプロフェンという成分を含むものは、日光に当たることでかぶれ(光線過敏症)が生じることがあります。特に5～9月は、長袖・長ズボンや日焼け止めで紫外線を避けましょう。はがした後も、4週間くらいは注意が必要です。

## 貼り薬を上手に使うには？

貼る時	皮膚を清潔にしてからお使いください。 汗をかいたりぬれたりしている場合は拭いてから、使用しましょう。 入浴後は汗がひいてから貼ってください。
かぶれやすい方は	早めにはがして皮膚を休ませてください。貼る場所を少しずらしたりするのも有効です。また、パップ剤ではガーゼを当ててその上から貼ることもできます。
はがす時	なるべくゆっくりはがしてください。一気にはがすと、皮膚の角質まで一緒にはがしてしまうおそれがあります。はがしにくい時は、水やぬるま湯で湿らせるとはがしやすくなります。
温湿布は	入浴の30分～1時間前にはがしましょう。はがしてすぐに入浴すると、ヒリヒリと痛むことがあります。入浴後も30分ぐらいしてから貼ってください。
保管は	直射日光や高温をさけてください。 開封後は、チャックなど袋の取り出し口をきちんと閉めてください。
はがれやすい部位に貼る時は	下の図のように、フィルムをはがす前に、はさみで切りこみを入れて貼ると、患部にフィットしやすくなり、はがれにくくなります。



出典：武田薬品(株)

製品によって、使用感やにおいが異なりますので、症状や部位、お好みに合わせてお使いください。

担当 みやこ薬局 北山店

お薬や介護についてわからないことや、気がかりなことがありましたら、お気軽にお尋ねください。

**みやこ薬局** 本店・山科店・薬大前店・マツヤスーパー店  
北山店・紫竹店・大宮店・みやこケアプランセンター(北山店横)

<http://www.miyako-ph.co.jp>